

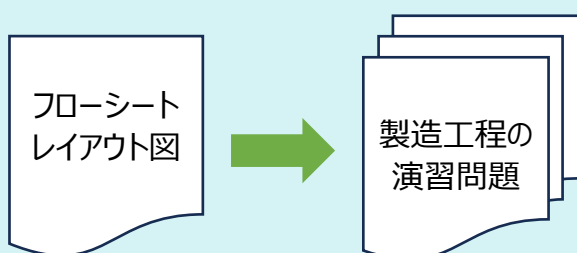
図面を教育コンテンツ化する事例を紹介します

新入社員・若手社員向けに、既存の図面や完成図書から、製造フローや系統、設備仕様、設計手順を演習問題化している会社が増えています。

事例1（製造業）

工場設備の系統図作成演習

生産設備の系統図を教材化。
新人保全担当者が設備のつながり、製造工程を理解できるようになるフロー記述問題と穴埋め形式の演習問題を制作。



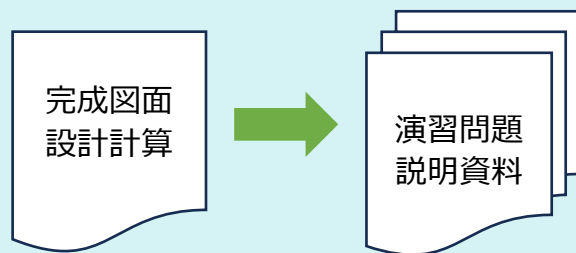
Point

新入社員が、製造工程のフォローや各設備の役割を理解するために、製造工程の記述・穴埋め問題及び解説資料を作成。

事例2（建設業）

給排水・空調設備の設計演習

完成図面をもとに、機器表・系統図・設計計算書の作図演習、設計計算演習、解説資料を制作。
設計フローを実習形式で習得できる教材に組立設計。



Point

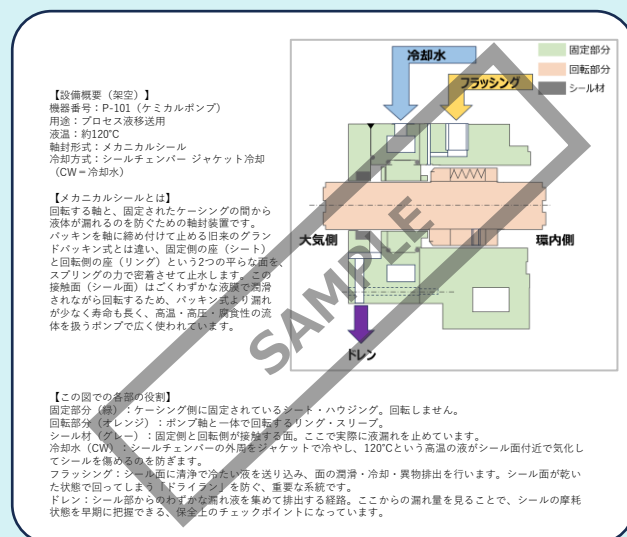
すでに持っている完成図面をそのまま素材に使えるので、教材をゼロから作り込む必要無し。何十人単位の新入社員にも同じ品質で横展開が可能。

事例3（製造業） 設備部品の解説資料作成（構造を色塗り資料化）

実機で複雑な設備や部品の色塗り資料を作成。
本サンプルは、「固定部分／回転部分／シール材」のように機能で色分け実施。機能ごとに色分けした資料を使うことで、若手社員でも新入社員に理解しやすく説明することが可能。

Point

一番やさしい入り口教材として、まずは1図面の説明資料から作成。



保全ラボができること

図面・仕様書などの技術情報を、演習問題・解説資料という「教材の型」に設計します。